

## 「一粒の花の種が実を結ぶように ・・・確実な実りをめざして」

園長 高杉 美稚子

私の一番好きな花、サクラも満開、平成 15 年度の始まりです。今日、ここに新しい園児たちを迎えて、新年度がスタート出来る事を心よりうれしく思います。

そして、今、園児たち、保護者の皆様、先生という、素晴らしい吉塚幼稚園の仲間がめぐり合ったことに心から感謝致します。今年度は総務部長に木京先生、教務主任に高林先生を配置した新たな組織での出発となり、より豊かな実りがやってくることを確信しています。吉塚幼稚園の 100 周年に向かっての新しい一歩を確実に踏み出したいと考えています。

本園の教育の三つの柱は 1、「教育は真の自立への援助の道」2、「教育は感動と思い出を作ること」 3、「教育は知ることの喜びを与えること」です。

そしてこの教育は

- 1、共育 自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」
- 2、響育 感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、驚育 知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。私は、教育は決して「競育」や「狂育」「脅育」であってはならないと考えます。感性に裏付けられた知性こそが本当の知恵であって、ただの知識で終わってはならないのです。美しいものを美しいと思う純粋な心、あるがままの自分を認められる素直な心、自分と同じように他を認められる謙虚な心を大切に出来る人達になってほしいと願っています。

ではどうしたら子ども達に、私たち教師は、親はよい教育ができるのでしょうか。

昨年はそのことを [ A ・ B ・ C ・ D ・ E ] で考えました。

「A」は *Aspire*、こころざしです。期待とか不安がはじめからこの世に存在しているわけではありません。自分に不安があるから、子どもの不安を感じるのです。全てが自分の心の問題です。全ては自分の捕らえ方、考え方、受け止め方次第です。こころざしを見つけて、前向きに一生懸命生きましよう

「B」は *Believe*、信頼です。自分と子ども達の力を信じましよう。本園の教育方針「個性と共感」の通り、お互いに独自の人格を尊重しあい、相手にも独自の生き方を許す心があって初めて良い人間関係が成り立つのです。

「C」は *Commit* 具体的に計画を練り、予算も人も配分するという意味です。子育てにおいては、今何が大切かということを確認しながら、どう進めていったらよいかという計画 見通しを立てることなしに進めることはできません。その為には

子どもの姿から学ぶことが一番大切です。その為には洞察力が必要です。感覚の鋭敏性を養い、親としての肌感覚を大切にしましょう。

「D」はDo 最後は行動です。一番に重要なことは、行動をまずしてみる事なのです。まず小さな行動を起こすと、その行動が呼び水になってやる気が起きます。まず親自身が行動を起こしましょう。子育てにおいては「行動しないで後悔するより、行動して反省することが大切」です。

最後に「E」はEnjoy。子育てはつらいことも多いですが、自らを信じて、徹すれば、その場、その場ではつらいことがあっても苦を苦と感じず、明るく楽しくやっていけます。それが可能なのが人間、社会的動物なのです。そしてそのためには、こころざし[A]が大切始めに戻ります。

さて、今年はそのことを言霊で考えてみたいと思います。

一粒の花の種があります。机の上において眺めても花は咲きません。適当な時期に、適当な土の深さに埋め、適当な水と光に包まれて始めて花は咲きます。同じように埋めても、同じようには咲かないかもしれないし、枯れてしまうかもしれません。自分だけどんなに努力しても、それだけでは結果は生まれません。どうしても周囲の協力が必要です。今、こうして生きているのですら、人の支えと不思議な縁でいかされているのですから。それがわかれば謙虚に生きられます。

## 1、ひとつの言葉を大切にしましょう。

この世はすべて、言葉を通した意志疎通がうまくいくか、否かによってお互いの関係がうまくいくか、気まずくなるか決まってきます。たった一つの言葉が子どもの心を閉ざしたり、傷つける凶器にもなり、逆に相手の心を開かせたり、救ったりもします。言葉がどう作用するかは、相手がどう受け取るかですべて決まりますコミュニケーションの原則は相手への思いやりです。

「ひとつの言葉でけんかして、ひとつの言葉で仲直り、  
ひとつの言葉におじぎしてひとつの言葉に泣かされる  
ひとつの言葉はそれぞれに一つの心をもっている」

## 2、言葉のご馳走をしましょう。何度いっても言い過ぎではありません。

感謝の言葉 ありがとう、ごくろうさま、苦労が吹き飛びます。

相談する言葉 あなたはどう思う？相談されればいやな気はしません

期待の言葉 きっとできるよ。勇気がわいてきます。

激励の言葉 がんばってね。やる気が出ます

信頼の言葉 大丈夫、まかせたよ。元気と自信がわいてくる。

ほめ言葉 よくやったね。積極性が出てきます。

6つの黄金の言葉、ご飯を毎日食べるように毎日ご馳走しましょう。言葉は使っても減らない大事な宝物です。

### 3、自分にも、子どもにもプラスの言葉をかけましょう。

暑い、疲れた、苦しい、おもしろくない、つまらない、頭がいたい、気分が悪いという言葉はいつも自分にかけていると、本当にいやな結果がやってきます。よかった、楽しい、うれしいと思うと、結果もそうなります。顕在意識が感じたものが直ちに潜在意識に影響して生活機能も同じようになります。その言葉の良し悪しによって生きる力も良くも悪くもあります。

人間は暗示にかかりやすい動物です。何気なく吐いた一言でも、気がつかないうちに自分や相手の潜在意識に働きかけてそのとおりの状態を引き起こします。いつも、前向きな言葉を使いましょう。つらいといっていると本当につらくなります

つらいことがつらいとしか感じられない、苦しいことが苦しいとしか感じられないのは、そこに楽しみを見出していないからです。どんなことでも好きになってしまうように努力してみましょう。好きなことは楽しいです。楽しいことは疲れません。楽しいと感じられる自分にするのは自分自身です。私達が生きていると実感するのは、楽しい時間を過ごしているときです。だから、好きになったものが勝ちです。そうすれば可能性も開けてきます。

ただ、息をしているだけでは生きているとはいえません。自分の好きなことをして、それで、なおかつ人のために役立つことが本当に生きていることではないでしょうか？

子育ても楽しみに変えるゆとりが、子どもをゆとりのある子どもに育てます。

### 4、人生を明るくする言葉を人に使いましょ。

言葉には人生を左右する力があります。人を傷つける言葉、勇気をくじく言葉、ヒトを失望させる言葉は前向きな言葉に言い換えましょ。

できません やってみます。

おお寒い、ごごえそうだ おお寒い身が引き締まる

勇気を与える言葉、喜びを与える言葉に替えると、なんとも言えず人生が明るく豊かになります。それが、自分や周りを積極的集団にします。

### 5、子ども達の相手のいいところを知らせましょ

人は自分が役に立っていると自ら認識できる時、やる気をかきたてられ、素晴らしい力を発揮します。片付けが上手だね。時間が守れたね。いつも笑顔がいいね。あらゆる機会を捉えて子どもを評価していることを知らせると、それに近づいてくるように努力し成長します。これが、やる気を膨らませる小さなクスリです。

おだててもいけない、偽ってもいけない。でも人は期待に答えて生きていくことを忘れてはいけないのです。言霊で信じあう心をお互いに作っていくことが大切です。

一人が頑張っても、良い教育は、環境は一人で完成できるものではありません。子ども達がいて、それを支えてくれる家族がいて下さって、真摯な教育をめざす教師

がいて初めて一つの教育が完成されます。共に育つことが、まず第一です。子ども達も、自分の力を十分に発揮してくれるでしょう。しかし、最後にこの環境を作っている一員は自分だということも忘れずにいましょう。子ども達の教育の更なる充実、私たち親、教師一人一人に託されています。自分が良くなって、自分が向上しなくて、自分が不平不満をもっていて、いい子育てが出来るわけがありません。子ども達にとっていい人的環境になるはずはありません。いい環境にするためには、まず自分からです。一人一人が、いい環境にまずなりましょう。そして皆でいい中身を作りましょう、そして教師も、親も子どもとその中で共に育ちましょう。

最初から立派な人間はいないように最初から、一人前の親も教師もいません。

親として、今の自分は未熟に思えても、その時、その時を精一杯生きて努力をしていけば、その時々ですべての人が「100点満点」なのです。それは、子ども達も、教師も皆同じです。皆が、自分を認められる、そんな育ちをしてほしいと願っています。だから恐れることは何もありません。行動を恐れ、結果を恐れ、何もしないのは、停滞退化でしかないとは私は考えます。人が、呼吸をし、生きているということは、何の成長、進歩もない人生を過ごす為ではありません。

そして、最終的に、自分が人の評価ではない、自分の中のもう一人の自分が自分を認めてあげる日、真の自立の日が迎えられる日まで頑張りましょう。そんな幼稚園（成長の場）を共に作りましょう。この実現のために、親も教師も、どうぞ、手を取り合っていきましょう。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学ばばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一步を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます。目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけて子育てを自分育てをしていきましょう。すべては、プラス思考です。

でも、感動と思い出は誰も作ってくれるものではありません、自分の手で作るのです。感動と思い出は、その人がそれぞれの立場で、精一杯頑張った分だけ平等にかえってきます。「Shoud - ねばならない」から「Will - したい」へ心を転換しましょう。

さあ、新しい一年が始まりです。どんな日々を過ごすかは、全て自分しだいです。子ども達、保護者の方、そして私たちにとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわせて頑張ります。子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くします。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守ります。保護者の方の暖かい、励ましとご協力も是非宜しくお願い致します。